

## 第17回神戸市医療安全推進協議会議事録（要旨）

1. 日時：令和元年12月4日（水）13：30～15：00

2. 場所：神戸市市役所1号館12階1121会議室

### 3. 議事

(1) 委員長及び副委員長の選出について

(2) 医療安全相談窓口の活動状況について

① 平成31年4～令和元年10月「医療安全相談窓口」相談実績報告

② 平成29年度～令和元年度 出前トーク実施状況

③ 相談事例紹介

(3) その他

令和元年度医療機関向け医療安全研修会の開催について

### 4. 会議資料

・神戸市医療安全推進協議会 委員名簿

・神戸市医療安全推進協議会 配席図

・資料1：平成31年度4～令和元年10月「医療安全相談窓口」相談実績報告

・資料2：平成29年度～令和元年度 出前トーク実施状況

・資料3：相談事例（委員限りの配布）

・資料4：神戸市保健所医療安全に関する講演会の開催について

### 5. 議事要旨

・開会（司会：医務薬務課長）

・保健所長あいさつ

・委員紹介

・議事

(1) 委員長・副委員長の選出について

委員長ならびに副院長をそれぞれ任命・就任した。委員長を議長として、以下の議事進行を司った。

(2) 医療安全相談窓口の活動状況について

①平成31年4～令和元年10月「医療安全相談窓口」相談実績報告  
事務局から資料1により説明

○委員

歯科診療所に関する再相談件数が7月に10件と多く、同一人物からの相談であると推察されるが、相談内容はこういったものであったのか

○事務局

当該医院職員が資格外の業務を実施しているのではないかという内容であった。

○委員

相談や苦情の内容分類で「コミュニケーションに関すること」とあるが対象となる職種は。

○事務局

医師が対象になるものが多いと思われる。その他にも看護師や事務員などについてもある。

○委員

セカンドオピニオンに関する苦情はどういった内容か。

○事務局

今年度はセカンドオピニオンに関する苦情はない。昨年度の苦情内容としては、患者がセカンドオピニオンを受けたいとかかりつけ医に申し出た際に、かかりつけ医の気分を害し、嫌な思いをしたとの内容であったと記憶している。セカンドオピニオンを受けた医療機関に対する苦情はない。

○委員

医療安全相談窓口の紹介元について、コールセンターからの照会が平成29年度から30年度にかけてゼロになった理由は。

○事務局

平成30年度当初からの集計方法変更によるものである。

○委員

医療機関案内先について、市民相談室が平成30年度から今年度にかけて減少した理由は。

○事務局

昨年度は無料で利用できる法律相談窓口として案内する機会が多かったが、現在は相談内容に応じて案内先を複数紹介しているため、件数が減少したと考えている。

○委員

以前、兵庫県歯科医師会相談窓口の連絡先が分かりにくいと指摘されたが、ホームページの全面リニューアルで分かりやすくなると思われるため報告する。

② 平成29年度～令和元年度 出前トーク実施状況

事務局から資料2により説明

○委員

啓発内容として、セカンドオピニオンに関することもあるのか。また、費用について啓発してほしい。

○事務局

セカンドオピニオンに関して、制度・費用について説明している。

○委員

制度普及のためにも啓発を続けてほしい。

○委員

薬やサプリメントの飲み合わせ、副作用についても啓発しているのか。

○事務局

セルフメディケーションの中で、飲み合わせや副作用等について説明している。

○委員

飲み合わせや、副作用等の説明はかかりつけ薬剤師の役割だ。是非かかりつけ薬局へ相談するよう案内してほしい。

○事務局

セカンドオピニオンやかかりつけ薬剤師等について委員から追加でお願いしたい。

○委員

セカンドオピニオンは患者の権利であり、そのことについてもっと啓発し広めていただきたい。また、医療者側としてもそれらについて認識する必要があると思う。

○委員

薬剤師会では国の示す患者のための薬局ビジョンに沿った形で業務を進めている。複数医療機関から処方されている薬について、かかりつけ薬剤師で一元管理し、医師に情報提供する体制があるので、利用いただきたい。

○委員

薬局・診療所間で連携していただきたい。以前、重複処方について薬剤師に指摘していただき助かった経験がある。

○委員

かかりつけ薬剤師が医師との連携を更に深めて情報を伝えていきたい。

○委員

当院では二次救急を受けている。二次救急を受診する際、お薬手帳など持ち物について説明はしているか。

○事務局

救急医療として一次、二次、三次についての説明は行っているが、持ち物についての説明は行っていない。

○委員

お薬手帳や保険証はもちろんだが、独居者については、ケアマネジャーが多くの情報を持っていることが多いため、ケアマネジャーの連絡先も持参するよう案内してほしい。

○委員

医師会としては消防が作成した「安心シート」の活用を推進している。

○委員

救急車をお願いしたときの搬送先について、決まりはあるのか。以前、利用した際、かかりつけの病院とは異なる病院に搬送された。

○委員

神戸市で救急当番が決まっており、それに従って搬送先が決まる。そのため、希望通りには搬送されない。

③ 事例紹介

(3) その他

令和元年度医療機関向け医療安全研修会の開催について  
事務局から資料4により説明

○委員

意見・質問等なし。

他

○委員

電子お薬手帳は今後どうなっていくのか。

○委員

現在、電子お薬手帳は40数社から出ている。スマートフォンで操作するものがメインである。神戸市ではソニーのハルモを活用している。ハルモではフェリカカードに情報を保存して利用する。情報の読み書きには専用の機械が必要であるため、機械がないと対応できない。スマートフォンと連携している電子お薬手帳では、本来必要となる高齢者においてスマートフォンを持っていないということが問題である。

○委員

複数医療機関を受診している場合はどうなるのか。

○委員

電子お薬手帳で一元管理することは可能である。薬剤師会としては、従来の紙のお薬手帳と電子お薬手帳の両方を持つように推進している。